

# 第1回 産科医WGにおける主な意見 (R4.7.19)

## 【産科医療に必要な体制】

### ○働き方の見直し

- 1人の産科医が24時間365日拘束されるのではなく、組織としてチーム医療を実践できる体制の構築が必要
- 若い医師に産科医を志してもらうには、上記のような働き方が好ましい
- 今後の女性医師の増加を見据え、仕事と育児を両立できるようなサポート体制の構築が必要

### ○必要な人員配置

- 常勤医の数が少なくても、外来・当直等に派遣医師のサポートや、他の医療機関との役割分担・連携が十分にできており、それほど負担は感じていないという意見もあった
- 1人医長は日々の診療を基本1人で判断しなければならないので、プレッシャーが大きく、体制の見直しが必要
- 市立輪島病院の早急な体制整備が必要

### ○機器の導入

- 1人～2人体制の病院に、胎児心拍の細変動を自動判定できる分娩監視システムのような機器を導入してはどうか

## 【その他】

- 修学資金について、女性医師のキャリアやライフプランに対応した柔軟な制度設計にする必要
- 能登だけでなく、県全域で連携を深めることが重要
- 妊産婦の送迎や宿泊に対する支援が必要
- 議論を進めるために、各種のデータ(搬送などの連携実績等)が必要